

I 実践

1 研究主題

思いやりと助け合いの心を持ち、互いに認め合うことのできる児童の育成

(1) 主題設定の理由

本校では、校訓を「ただしく ゆたかに たくましく」とし、「心豊かでたくましく、夢や希望をもって自ら学ぶ児童の育成」を教育目標としている。校訓の「ゆたかに」では、「思いやりの心の育成」を目指している。

本校の児童は、明るく元気であり、やさしさをもって相手に接している様子も見られる。しかし、時に自己中心的となり、友達を傷つけるような発言や行動をとってしまうこともある。そこで、思いやりと助け合いの心を持ち、互いに認め合うことのできる児童を育成したいと考え、主題を設定した。

(2) 研究の内容

- ・豊かな体験活動の実践（異学年交流・福祉体験・ボランティア活動）
- ・道徳教育の充実
- ・人権メッセージへの応募
- ・人権教育を意識した学校・学級（いいところ発見「きらり賞」・心の声アンケートなど）

2 実践内容

(1) 豊かな体験活動の実践

ア とも遊び・あおぞら班活動（縦割り集団活動の実施）

毎週水曜日、昼休みと清掃時間をあてて、クラスごとに遊びを決めて楽しく遊ぶ「とも遊び」を行っている。

また、あおぞら班活動では地区ごとの縦割り班を14班編成し、6年生を中心とし、鬼ごっこやドッジボールなどをして遊んでいる。

イ さわやかマナーキャンペーンの実施（あいさつ運動）

年に10回、さわやかマナー週間を設け、昇降口や正門前であいさつ運動を行っている。上学年と下学年の当番のクラスの児童と運営委員会の児童が、PTA専門委員と一緒に「おはようございます」と、登校してくる児童に元気に挨拶している。

ウ さわやかマナーキャンペーンの実施（環境ボランティア）

11月にあおぞら班の縦割り集団で、校庭や通学路、学校から近い城址公園やひやっぴょうち公園の落ち葉拾いや、ゴミ拾いを実施した。

エ 地域の方々との交流

(ア) 助川学区大運動会

本校の運動会は、地域の方々とともに行うものである。数多くの地域種目があり、各学年ごとに地域の方と楽しく競技に参加した。

(イ) 学校子ども会

本校の児童をおおよそその地区ごとに縦割り班編成し、地域のコミュニティセンター主催のもと、各班ごとに様々な遊びを行った。



〈あおぞら班活動〉



〈あいさつ運動〉



〈さわやかマナーキャンペーン〉

(ウ) 福祉体験の実践（５年生）

介護老人施設「さくら日立」に５年生が出向き、お年寄りとの交流や、歌や踊りを披露した。

(２) 道德教育の充実及び人権教室の実施

各学年とも、めざす児童像にむけて、道德の時間と他教科や他領域との関連を図りながら、道德教育を進めている。また、年に１度、授業参観で全学級が道德の授業を公開している。

また、３年生においては人権教室を実施し、道德教育との連携を図りながら、人権に対する理解を深めることができた。

(３) 人権メッセージへの応募

高学年の児童が人権メッセージに取り組んだ。各学級から良いメッセージを選び、県の人権メッセージに応募したり、人権コーナーに掲示したりした。

(４) 人権教育を意識した学校や学級での取り組み

学級活動や授業の中で、ペアや小グループ、クラス全体で、自分を表現する場や友達に意見をもらう場を設定することで、互いのよさを認め合い、自己肯定感を高められるようにした。短学活に友だちの良いところを発表することで、一人一人の良さに気付かせる場面を設定している。

また、本年度より学校として「きらり賞」を設定し、友だちの頑張っている姿を見取り、毎月数名ずつ校長先生から賞状が授与される取り組みが行われている。それにより、友だちの良いところに目を向けられる児童が着実に増えてきている。



〈さくら日立訪問〉



〈人権教室 ３年生〉

３ 成果

- ・ 異学年が一緒に遊んだり、関わり合ったりすることにより、上級生が下級生の面倒を積極的にみる姿が見られるようになった。学年の違う児童との関わり合いにより、友だちや下級生に対して思いやりの気持ちをもって接することができるようになりつつある。
- ・ 学校子ども会やお年寄りとの交流では、少子化社会や地域のつながりが希薄になりつつある中で、世代の違う人々と自分の思いを通わせ、相手のことを考えて行動することの大切さを実感する良い機会となった。
- ・ あいさつ運動では、はじめはあいさつの声が小さかった児童も、自信をもって元気よく地域の人や友だちにあいさつをする姿が見られるようになってきた。
- ・ さわやかマナーキャンペーンでは、日常的に自分たちが使っている学校や道路、公共施設を清掃することで、奉仕の心が芽生えた。
- ・ 人権メッセージの作成や良いメッセージの校内掲示をすることで、友だちの思いに気付いたり、人権についての意識を高めたりすることができた。

Ⅱ 今後の課題

- ・ 児童が様々な体験を通して、思いやりの心や助け合いの心をさらに育て、学校生活の場で人権教育の充実を図っていく。
- ・ 家庭や地域においても人権に対する意識を高められるよう、連携や啓発活動に努めていく。

Ⅲ 人権コーナーの設置の様子

